文鰩閃浪

JJ1SXA/池

いきなり、題名が読めなくて？？でしょう、これは、「とびのうを の なみきり」と読みます、然し、読み方が分っても、それは何じゃいでしょう。

これは、陸上競技の「幅跳び」の事です、何でこんな難しい漢字を当てたのか、説明文には「距離を限らずして前に飛躍し、少しも遠く踰越（ゆえつ）するを務めしむ」とあります、お気付きかと思いますが、明治時代の文章です。

日本の運動会の起源と言われる（異論もあるが）、1874年（明治7年）3月21日東京海軍兵学寮で行われた行事「競闘遊戯（きそいあそび）」の「競闘遊戯表」というプログラムに記されたものです、「150ヤード徒競走（137.16mは140m弱）」は、「雀雛出巣（すずめ の すだち）」で、「150ヤードの距離を疾駆せしむ」と説明されています、「高跳び」 は、「大鯔跋扈（ぼら の あみごえ）」で、「高点を定めずして上に飛躍し、少しも高く地を離るるを務めしむ」と説明され、「三段跳び 」は、「白鷺探鰌（さぎ の うをふみ）」で「或は一脚を蹇（あしなえ）し、或は大踏歩し、或は飛躍し、歩々更互して以て疾駆せしむ」と説明されています、「棒高跳び」は、「 蜻蛉飜風（とんぼ の かざがへり）」で、説明文は、「竿を以て地を撥し、旋転飛躍して、以て疾駆せしむ」です。（英文の翻訳だが、凝っている）

他にも種目はあり、合計18種目だったようです、2年後の1876年（明治9年）4月7日、兵学寮前操練場で遊戯業競（ゆうぎわざくらべ）が開催され、競技からは「負いぶい競走」・「目隠し競走」等が外れて綱引き・剣術等が加えられたようです。

「二人三脚」は、運動会では定番かと思いますが、「蛺蝶趁花（てふ の はなおひ）」です、「2人を並べて、左者の右脚と右者の左脚と緊紮（きんさつ）し、二頭三脚にして疾駆せしむ」とあり、文章は難しいが、内容は良く分かります。

他にも、競歩が、「野鶴出籠（かご の にげづる）」で、「脚を伸し、少しも其体を毀（こぼ）ることなく整粛して、以て急歩せしむ」で、現在のルールと大差無いようです、現在のルールは、「常にどちらかの足が地面に接していること（両方の足が地面から離れると、ロス・オブ・コンタクトという反則をとられる、以前はリフティングという名称だった）、前脚は接地の瞬間から地面と垂直になるまで膝を伸ばすこと（曲がるとベント・ニーという反則をとられる）」となっていて、その定義に違反しているおそれがあると、競歩審判員が判断したときに、競技者は注意を受けるようです。

後、ユニークなのは、「水桶運び競走」で、「須浦汲潮（すま の しほくみ）」となっていて、「頭上に水桶を戴き疾駆せしむ。但た、50ヤードの距離に達して水を溢耗すること少く、且、速に還来るを務めしむ」とあります、この競技は、余り見たことがありません。

走る競技の距離が、メートルで無く、ヤードなのは、競闘遊戯は、イギリス海軍式教育導入の過程で雇った、お雇い外国人の発案により開催された為です、当時の日本は、尺貫法がメイン、150ヤードを75間2尺としないところが良い所、競技種目について、馴染みが無かったため、「二人三脚」については「戦争で足を失った人をくっつけて一人の兵士にでもする手立てか」、「目隠し競走」については「全く危ないことで、怪我でもしたらどうするのだ」などと非難されたようです。（説明文は原文のまま、難しい漢字に「ふりがな」を付けました、以下も参考に、鰩＝トビウオ、鯔＝ボラ、鰌＝ドジョウ、蛺蝶＝タテハチョウ）